

## ミルトンの『パラダイス・ロスト』のバイオ・ミュージック化と音楽化の試み (2)

森谷 峰雄\* 森谷 美麗\*\*

### 〔抄 録〕

前回において、<sup>(1)</sup>『音響失樂園』のバイオ・ミュージック化の可能性について、少なくとも、その肯定的可能性を統計的に示した。現在、今まで集計した資料を整理中であり、今回の論文において、その結果を示すことはできなかった。しかし、未発表ではあるが、資料解析の中間的印象として肯定的可能性が広がっている。そして、その解析結果は、別に発表するとして、今回は肯定的可能性を踏まえて一先取りして『音響失樂園』の波形的分析と、音楽化の実例を発表したいと思う。つまり、筆者らは非伝統的方法と伝統的方法を総合して、ミルトンの『パラダイス・ロスト』をバイオ・ミュージック化しようとしているのである。つまり、音響失樂園をベースに伝統的音楽を仕上げる。この理論的根拠は副次的創造である。この理論は、すでに、発表した<sup>(2)</sup>。簡単に言えば、二つのコイルの一方に電流を流すと、他方のコイルに副次的電流が流れるようなものである。つまり、音響失樂園を聞いて、その創造的伝播を受けて、作曲したのが今回の『音楽失樂園12曲』である。ただし、紙面の都合上一部しか掲載できない。『音響失樂園』の波形分析は、各巻の極めて特徴的な音色・リズム—これを featuring tone と名付け、略して ft とする—を捕らえ、その波形と詩の内容との照合を行った。この波形照合で明らかになった最大の事実は、全巻を通して共通する調べがあるということである—この音色を common featuring tone, 略して cft と称する。さらに、この cft は悲しみ・苦しみを表現するものであり、ベートーベンの『エロイカ』に出てくる宇宙的悲しみ・うめきに類似することが分かった。さらに、この cft は第6巻以降、詩（音響）の展開を流動的・円滑にする機能が加わってくることが分かった。『音響失樂園』から『音楽失樂園』—これは、更に、ソフィステイクイトされねばならない—と平行して、現在、『音響失樂園』とは切り離して、純粹の失樂園の音楽の作曲が進められている。また、可能性として、波形のサンプルを元に、純粹のコンピューターミュージックを再構築することがあげられる。しかし、こうなると、もうミルトンの心とはかけ離れ、創作の領域にはいる。しかし、その可能性は肯定的に受けとめたい。波形と詩の内容照合は、単なる四則計算ではなく、対数を用いなければ、厳密な照合はできない。ここでは、ごく大まかな内容照合に甘んじた。

この問題は、計算と実録に、基づいて100パーセント厳密な内容照合を計画していることを忘れないようにここで述べておく。

**キーワード** 『音響失樂園』・波形・『音楽失樂園』・副次的創造・ft・cft・ベートーベン「エロイカ」

[全内容]

第1章 音響失樂園波形分析

第1巻、第2巻、第3巻、第4巻、第5巻、第6巻、第7巻、第8巻、第9巻、第10巻、第11巻、第12巻

第2章 音楽失樂園

第1巻、第2巻、第3巻、第4巻、第5巻、第6巻、第7巻、第8巻、第9巻、第10巻、第11巻、第12巻

第3章 共通特徴音色(cft)比較

ベートーベン『エロイカ』との比較

シューベルト『未完成』との比較

(本稿目次)

第1章 音響失樂園波形分析

第1巻

第2章 音楽失樂園

第1巻から第12巻冒頭部分

第3章 共通特徴音色(cft)比較

ベートーベン「エロイカ」との比較

---

## 第1章 音響失樂園波形分析

### 第1巻

第1巻の波形分析は詳細にし、本稿において、残余の巻のそれは特徴のある音色の波形のみに限定する。しかし、第1巻だけでも、ftは141あり、これらを一挙にここで論じることはできない。それ故今後の利用上の便宜を考えて、第1巻のftを資料して示すことにする。

録音時間：12分7秒455 (727.455秒)

サンプル数：32.080.884

フォーマット：Windows PCM

サウンド形式：44.100KH. 16ビット、ステレオ

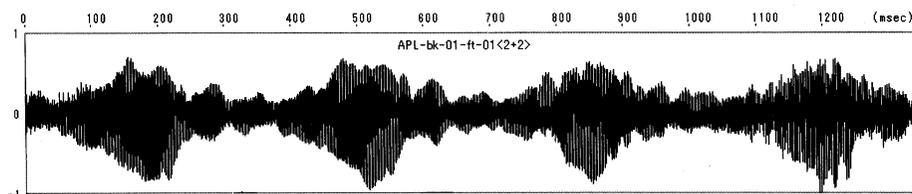
サイズ：12.2 MB

行数：798・データ数：2174

略称 Acoustic Paradise Lost=APL/Featuring Tone: FT, or, ft/Common Featuring  
Tone: CFT, or, cft

(1) FT-01 <2+2> (00.00.11.60-00.00.12.96) 正味:00.00.1.36(1秒36ミリ秒)

【特徴】 4拍子(2+2)行進的。突き進む精神性と一致している。ギリシャ古典文学の領域を越え、偽りの世界観から、キリスト教的・ヘブライ予言者の世界の真の实在の世界へ飛び立たんとして。毅然たるミルトンの精神的エートスが、この躍動するリズムに表現されている。



(波形 APL-bk-01-ft-01)

(行数変換) 全体との時間割合から行数とデータ数を割り出す

$$\text{行数のはじめ} : 798 \times \frac{11.6}{727.455} = 12.73 \text{ (line)} \quad \text{終わり} : 798 \times \frac{12.965}{727.455} = 14.22 \text{ (line)}$$

行：12-15 (紙面の都合上、引用は省略する。)

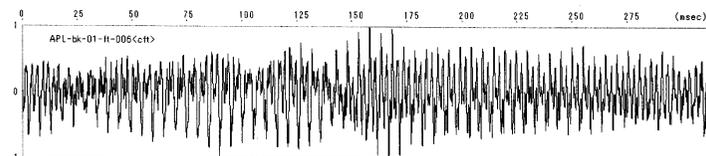
(データ変換)

$$\text{始まり} : 2174 \times \frac{11.6}{727.455} = 34.347 \quad \text{終わり} : 2174 \times \frac{12.965}{727.455} = 38.74$$

data	dB
34	72.00
35	78.00
36	78.80
37	77.90
38	78.20
39	76.30

(2) FT-06 <cft> (00.00.33.14-00.00.33.45), 正味:00.00.00.31

【特徴】 悲しみの調べ。天上から追放された過去天使の悲しみを表現している。



(波形 APL-bk-01-ft-06)

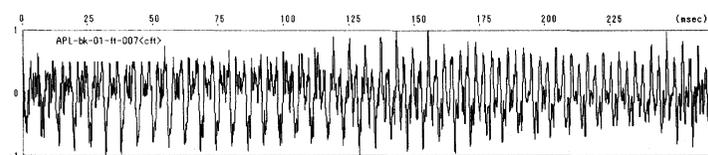
(行数変換) : 行36-37

(データ変換) : 99.038-99.96

data	dB
99	77.50
100	64.80
101	74.10

(3) FT-07 <cft> (00.00.35.20-00.00.35.45), 正味:00.00.00.25

【特徴】 悲しみの音色が出ている。サタンが仲間より栄光において優れようと高望みする。ここに、悲しさがある。



(波形 APL-bk-01-ft-07)

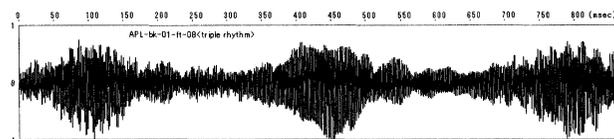
(行数変換) : 行38-39

(データ変換) : 105.19-105.95

data	dB
105	81.20
106	62.50

(4) FT-08 <triple rhythm> (00.00.35.76-00.00.36.69), 正味:00.00.00.93

【特徴】 3拍子リズムが出ている。この叙情性を下の箇所を読み込むことができよう。至高の神に戦いを挑むなど、本当にサタンはどこまで馬鹿であろうか、という作者の気持ちが出ているのではなかろうか。



(波形 APL-bk-01-ft-08)

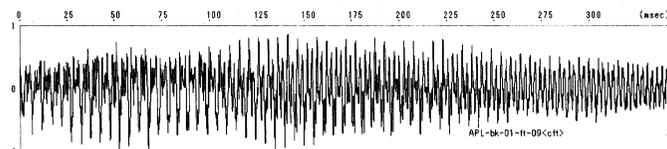
(行数変換) : 行40-41

(データ変換) : 106-110

data	dB
106	62.50
107	74.40
108	78.50
109	78.20
110	76.30

(5) FT-09 <cft> (00.00.38.85-00.00.39.19), 正味:00.00.00.34

【特徴】 悲しみの音色が、サタンが天上で不敬神の戦争を始めたことに対して流れている。ここにミルトンの悲しみが出ている。



(波形 APL-bk-01-ft-09)

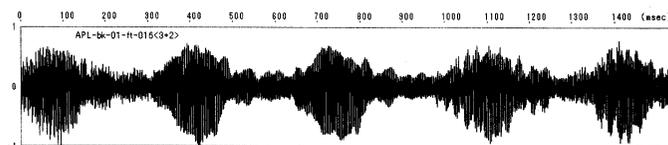
(行数変換) : 行42-43

(データ変換) : 116-117

data	dB
116	80.70
117	64.80
118	52.80

(6) FT-16 <3+2> (00.01.08.55-00.01.10.10), 正味:00.00.15.10

【特徴】 5単位リズム (3+2) : 耳には、「よよよのよ」または「れれれのれ」と聞こえ、この延長線上に何かメロデイが生まれそうである。何か、おかめ・ひょっとこが舞台でおもしろおかしく手足を動かして、自由に乱舞するような雰囲気醸し出す。叙事詩性と叙情詩性が連結したコングルオウスな滑稽さがある。火の湖で、良心の呵責と復讐心、悲しみと苦しみにのたうっているサタン一味の滑稽に近い状況に合う音色である。



(波形 APL-bk-01-ft-16)

(行数変換) : 行66-77

(データ変換) : 204.86-209.49

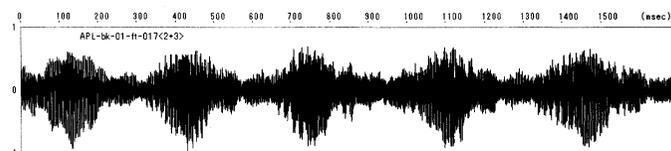
data	dB
204	74.20
205	70.00
206	76.96
207	76.10
208	76.60
209	74.90
210	76.70

(7) FT-17 <2+3> (00.01.12.56-00.01.14.14), 正味:00.00.01.18

【特徴】 2拍子と3拍子の連結した複雑なリズムである。このリズムはサタンとその一味の墮

ミルトンの『パラダイス・ロスト』のバイオ・ミュージック化と音楽化の試み(2) (森谷峰雄・森谷美麗)

落した状況、口では大胆なことを言うが、その実、それに意志が伴わない空虚な印象を与える。



(波形 APL-bk-01-ft-17)

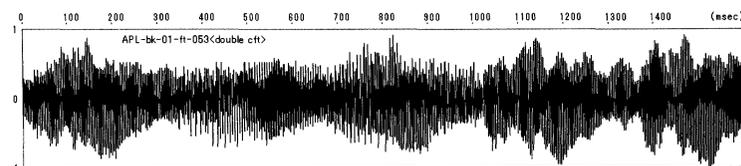
(行数変換)：行79-82

(データ変換)：216-222

data	dB
216	72.7
217	71.60
218	72.70
219	76.30
220	78.20
221	76.10
222	73.40

(8) FT-53(00.04.47.52-00.04.49.13), 正味:00.01.61

【特徴】 cft が連続的に生じ、物語が苦しみのうちに、劇的・流動的展開をする効果を持つ。



(波形 APL-bk-01-ft-53)

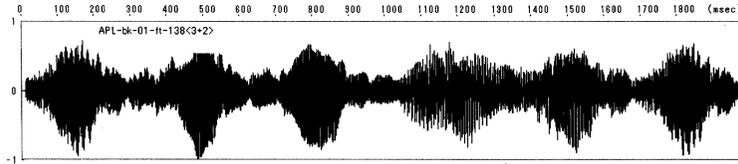
(行数変換)：行317-319

(データ変換)：860-865

data	dB
860	79.80
861	69.80
862	64.60
863	68.80
864	69.90
865	70.80

(9) FT-138 <3+2> (00.11.35.98-00.37.97), 正味:00.00.01.1

【特徴】極めて特徴的な第1巻の音色・リズムである。これに類似するリズム FT-16が冒頭部分にでて、ここでそれが繰り返される。そのことは、第1巻が終結に達したことを暗示する。このリズム・音色は、詩の内容では蜜蜂が春になって巣を造る様子である。蜜蜂が密集して、せっせと働くようすが、伝わる。しかしサタンとその一味に用いられたのと類似の音色・リズムが用いられていることによって、蜜蜂も地獄のサタンとその一味のような状況にあることが分かる。



(波形 APL-bk-01-ft-138)

(行数変換)：行766-769

(データ変換)：2088-2095

data	dB
2088	76.10
2089	60.10
2090	72.30
2091	76.20
2092	80.30
2093	75.70
2094	78.50
2096	77.10

## 第2章 音楽失樂園

以下の曲は、いずれも音響失樂園をベースに副次創造的に作曲されたものである。従って、あくまでも、音響の展開にのみ従い、伝統的音楽形式は取られていない。しかし、そこに、音楽失樂園の特色がある。いずれ、これらを材料に、音響失樂園に基づいた交響曲を作曲する基礎資料としたい。

### 第1巻 地獄のサタンとその一味

(全289節)

### 第2巻 地獄の会議

(全334節)

### 第3巻 神の計画

(全285節)

ミルトンの『パラダイス・ロスト』のバイオ・ミュージック化と音楽化の試み(2) (森谷峰雄・森谷美麗)

第4巻 楽園のアダムとイブ

(全485節)

第5巻 楽園のアダムとイブ

(全349節)

第6巻 天上の戦争

(全445節)

第7巻 天地創造

(全252節)

第8巻 人間の創造

(全252節)

第9巻 人類の墮落

(全295節)

第10巻 アダム・イブの不和と和解

(全541節)

第11巻 人類の歴史一大洪水まで

(全352節)

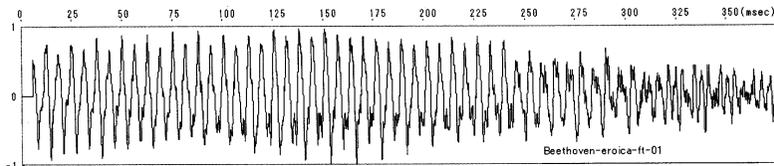
第12巻 人類の歴史一新しい天と地の到来まで

(全250節)

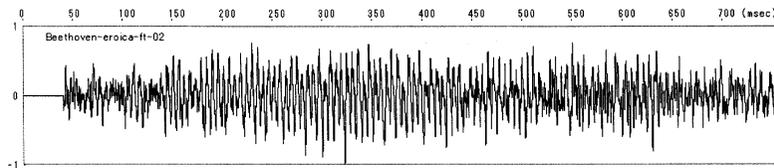
### 第3章 共通特徴音色(cft)比較

#### ベートーベン『エロイカ』との比較

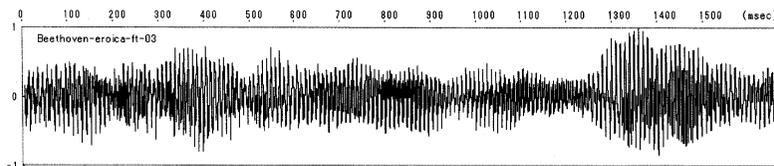
失楽園の12巻を通して、散りばめられている cft、悲しみのトーンは、聞く者の心には、同じような悲しみの情を生起する。しかし、このトーンは6巻あたりから、節と節の間をなめらかに流動的に流れて、連結の機能を合わせ持つようになる。それはともかく、この音色が凶らずも、ベートーベンの「エロイカ」に聞こえる宇宙的悲しみの感情に類似する。あるいは、少し次元は下がるが、シューベルトの「未完成」にも現れている。この音色は、人類の普遍的悲しみを表現する音色であるのかもしれない。先ず、そのトーンを波形によりて、紹介する。



(あ)



(い)



(う)

(あ) と (い) は「エロイカ」の始め方、(う) は終わりの方に出てくる。前二者は、APLの FT-06 <cft>、FT-07 <cft> に、(う) は FT-53 <double cft> に類似する。もちろん、ベートーベンの cft はその中に他の音色が混在し、たとえ様のない美しい感動的音色を持ち、人の感性に訴えるところが無量である。この意味で、APL とは比較にならないであろう。しかし、その一つの要素はやはり共通するものであるといわざるを得ない。しかし、残念ながら、紙面の都合上、詳細な比較分析は別の機会に譲ることにする。

### 結 論

音響失楽園は、聞き様によっては、単調な同じ調べであるという印象をぬぐえない。しかし、何度も聞きなおし、耳を傾けると、非常に多様なリズム・音色変化がある。中には、踊り出す

リズム、歌うような節がある。これは、決して変化のない音響ではない。確かに、この音響を嫌う人間がいる。しかし、実際のところ、熱心に聞く者には、救済効果を持つことが統計的にしめされている。今後、この音響失樂園の用い方の問題がある。私は、教室の現場で教える者として、この音響を学生の雑念をフォーマットする教具として活用したいと思っている。フレッシュな気持ちで授業に参画させる働きを期待しているのである。同時に、そういう実利主義ではなく、純粋に芸術的価値を追求する上から、この音響失樂園から交響曲失樂園を作る計画をしているのである。その意味で、「音楽失樂園」は、その第一歩を示したと自負することが許されるであろう。

\* 第1、3章の著者。

\*\* 第2章の著者。芸術創作(音楽表現)のPh.D.候補者。

注1 ミルトンの「パラダイスロスト」のバイオ・ミュージック化と音楽化の試み(佛教大学文学部論集84号、57-76頁)

注2 副次的創造については森谷峰雄「一者論的芸術理論」『ミルトンの芸術の理論的研究』(上)(風間書房、1977年)、73-77頁参照。

## [資料] APL 第1巻の全 FT

(添付)

- |  |  |
|--|--|
| 1. Ft001: 00.00.11.60→00.60.12.96                    | 21. Ft021: 00.01.52.71→00.01.53.04 <cft>   |
| 2. Ft002: 00.00.13.72→00.00.14.05 <cft>              | 22. Ft022: 00.01.54.93→00.01.55.32 <cft>   |
| 3. Ft003: 00.00.23.00→00.00.23.45 <cft>              | 23. Ft023: 00.02.04.44→00.02.04.73 <cft>   |
| 4. Ft004: 00.00.24.40→00.00.25.70 <2+2>              | 24. Ft024: 00.01.54.93→00.02.10.70 <cft>   |
| 5. Ft005: 00.00.32.17→00.00.32.45 <cft>              | 25. Ft025: 00.02.18.24→00.02.18.73 <cft>   |
| 6. Ft006: 00.00.33.14→00.00.33.45 <cft>              | 26. Ft026: 00.02.20.01→00.02.20.10 <cft>   |
| 7. Ft007: 00.00.35.20→00.00.35.45 <cft>              | 27. Ft027: 00.02.31.41→00.02.31.79 <cft>   |
| 8. Ft008: 00.00.35.76→00.00.36.69<br><triple rhythm> | 28. Ft028: 00.02.33.71→00.02.34.11 <cft>   |
| 9. Ft009: 00.00.38.85→00.00.39.195<cft>              | 29. Ft029: 00.02.55.70→00.02.56.52 <cft×2> |
| 10. Ft010: 00.00.39.15→00.00.39.45 <cft>             | 30. Ft030: 00.03.00.10→00.03.00.52 <cft>   |
| 11. Ft011: 00.00.45.52→00.00.39.45 <cft>             | 31. Ft031: 00.03.15.63→00.03.15.92 <cft>   |
| 12. Ft012: 00.00.53.20→00.00.46.19 <cft>             | 32. Ft032: 00.03.17.34→00.03.17.59 <cft>   |
| 13. Ft013: 00.00.54.20→00.00.54.36 <cft>             | 33. Ft033: 00.03.19.30→00.03.19.61 <cft>   |
| 14. Ft014: 00.01.02.90→00.01.03.13 <cft>             | 34. Ft034: 00.03.20.56→00.03.20.92 <cft>   |
| 15. Ft015: 00.01.06.25→00.01.06.36 <cft>             | 35. Ft035: 00.03.22.07→00.03.22.27 <cft>   |
| 16. Ft016: 00.01.08.55→00.01.10.10 <3+2>             | 36. Ft036: 00.03.26.31→00.03.26.60 <cft>   |
| 17. Ft017: 00.01.12.56→00.01.14.20 <2+3>             | 37. Ft037: 00.03.28.30→00.03.28.57 <cft>   |
| 18. Ft018: 00.01.20.33→00.01.20.58 <cft>             | 38. Ft038: 00.03.32.66→00.03.32.97 <cft>   |
| 19. Ft019: 00.01.28.55→00.01.29.00 <cft>             | 39. Ft039: 00.03.25.61→00.03.25.80 <cft>   |
| 20. Ft020: 00.01.45.57→00.01.45.99 <cft>             | 40. Ft040: 00.03.26.30→00.03.26.52 <cft>   |
|  | 41. Ft041: 00.03.28.31→00.03.28.57 <cft>   |
|  | 42. Ft042: 00.03.35.01→00.03.35.99 <cft>   |

43. Ft043: 00.03.37.38→00.03.37.64 <cft>  
 44. Ft044: 00.03.41.07→00.03.41.34 <cft>  
 45. Ft045: 00.04.06.40→00.04.06.60 <cft>  
 46. Ft046: 00.04.12.01→00.04.12.38 <cft>  
 47. Ft047: 00.04.15.10→00.04.15.40 <cft>  
 48. Ft048: 00.04.24.56→00.04.24.73 <cft>  
 49. Ft049: 00.04.26.11→00.04.26.45 <cft>  
 50. Ft050: 00.04.44.38→00.04.44.48 <cft>  
 51. Ft051: 00.04.47.52→00.04.49.13  
 <劇的展開>  
 52. Ft052: 00.04.49.47→00.04.50.49  
 <trujle rhythm>(心の迷い)  
 53. Ft053: 00.04.51.81→00.04.52.42  
 54. Ft054: 00.04.52.62→00.04.52.80 <cft>  
 低いおんびき  
 55. Ft055: 00.04.54.40→00.04.54.51 <cft>  
 56. Ft056: 00.04.55.95→00.04.56.21 <cft>  
 57. Ft057: 00.04.58.10→00.04.58.21 <cft>  
 58. Ft058: 00.05.07.55→00.05.07.89 <cft>  
 59. Ft059: 00.05.10.26→00.05.10.58 <cft>  
 60. Ft060: 00.05.25.96→00.05.26.28 <cft>  
 61. Ft061: 00.05.39.00→00.05.39.31 <cft>  
 62. Ft062: 00.05.40.27→00.05.41.59  
 <triple rhythm>(Say Muse)  
 63. Ft063: 00.05.47.72→00.05.48.01 <cft>  
 64. Ft064: 00.05.59.34→00.05.59.68 <cft>  
 65. Ft065: 00.06.02.64→00.06.03.07 <cft>  
 66. Ft066: 00.06.06.17→00.06.06.41 <cft>  
 67. Ft067: 00.06.06.45→00.06.06.68 <cft>  
 68. Ft068: 00.06.16.47→00.06.16.77 <cft>  
 69. Ft069: 00.06.20.75→00.06.21.07 <cft>  
 70. Ft070: 00.06.24.42→00.06.24.73 <cft>  
 71. Ft071: 00.06.26.47→00.06.27.33  
 <triple rhythm>  
 72. Ft072: 00.06.29.19→00.06.29.47 <cft>  
 73. Ft073: 00.06.31.86→00.06.32.13 <cft>  
 74. Ft074: 00.06.37.87→00.06.38.17 <cft>  
 75. Ft075: 00.06.37.57→00.06.38.82 <cft>  
 76. Ft076: 02.06.45.24→00.06.45.49 <cft>  
 77. Ft077: 00.06.53.15→00.06.53.78  
 <duple rhythm>  
 78. Ft078: 00.06.54.44→00.06.54.87 <cft>  
 79. Ft079: 00.06.58.97→00.06.59.16 <cft>  
 80. Ft080: 00.07.01.86→00.07.02.77 <cft>  
 81. Ft081: 00.07.16.05→00.07.16.25 <cft>  
 82. Ft082: 00.07.17.38→00.07.17.75 <cft>  
 83. Ft083: 00.07.24.55→00.07.24.93 <cft>  
 84. Ft084: 00.07.27.70→00.07.25.96 <cft>  
 85. Ft085: 00.07.29.05→00.07.29.31 <cft>  
 86. Ft086: 00.07.30.80→00.07.30.96 <cft>  
 87. Ft087: 00.07.34.64→00.07.34.98 <cft>  
 88. Ft088: 00.07.38.33→00.07.38.05 <cft>  
 89. Ft089: 00.07.46.66→00.07.47.66  
 <triple rhythm>  
 90. Ft090: 00.07.52.07→00.07.52.34 <cft>  
 91. Ft091: 00.07.52.98→00.07.53.21 <cft>  
 92. Ft092: 00.07.53.41→00.07.53.68 <cft>  
 93. Ft093: 00.07.54.20→00.07.54.41 <cft>  
 94. Ft094: 00.07.54.76→00.07.55.04 <cft>  
 95. Ft095: 00.07.57.64→00.07.58.03 <cft>  
 96. Ft096: 00.07.58.72→00.07.59.07 <cft>  
 97. Ft097: 00.08.01.79→00.08.02.05 <cft>  
 98. Ft098: 00.08.04.35→00.08.04.75 <cft>  
 99. Ft099: 00.08.26.54→00.08.26.78 <cft>  
 100. Ft100: 00.08.35.22→00.08.35.49 <cft>  
 101. Ft101: 00.08.37.95→00.08.37.49 <cft>  
 102. Ft102: 00.08.49.92→00.08.50.19 <cft>  
 103. Ft103: 00.08.52.64→00.08.52.90 <cft>  
 104. Ft104: 00.08.56.27→00.08.56.54 <cft>  
 105. Ft105: 00.09.00.94→00.09.01.22 <cft>  
 106. Ft106: 00.09.03.56→00.09.04.49  
 <duple rhythm>  
 107. Ft107: 00.09.04.62→00.09.04.90 <cft>  
 108. Ft108: 00.09.17.02→00.09.17.27 <cft>  
 109. Ft109: 00.09.29.29→00.09.30.19  
 <duple rhythm>(••↑)  
 110. Ft110: 00.09.32.79→00.09.32.99 <cft>  
 111. Ft111: 00.09.36.01→00.09.36.32 <cft>  
 112. Ft112: 00.09.39.86→00.09.40.05 <cft>  
 113. Ft113: 00.09.58.74→00.09.59.28  
 <duple rhythm>(••↑)  
 114. Ft114: 00.10.60.07→00.10.00.38 <cft>  
 115. Ft115: 00.10.01.86→00.10.02.06 <cft>  
 116. Ft116: 00.10.02.48→00.10.02.74 <cft>  
 117. Ft117: 00.10.13.07→00.10.13.80 <cft>  
 118. Ft118: 00.10.14.29→00.10.14.44 <cft>

- 119.Ft119: 00.10.14.83→00.10.15.10 <cft>  
120.Ft120: 00.10.17.86→00.10.18.13 <cft>  
121.Ft121: 00.10.22.83→00.10.23.14 <cft>  
122.Ft122: 00.10.23.18→00.10.23.69  
<duple rhythm>  
123.Ft123: 00.10.29.49→00.10.29.84 <cft>  
124.Ft124: 00.10.34.82→00.10.35.39  
<duple rhythm>  
125.Ft125: 00.10.37.16→00.10.37.70  
<duple rhythm>  
126.Ft126: 00.10.38.03→00.10.38.18 <cft>  
127.Ft127: 00.10.48.53→00.10.49.12  
<duple rhythm>  
128.Ft128: 00.10.57.57→00.10.57.89 <cft>  
129.Ft129: 00.11.04.28→00.11.04.57 <cft>  
130.Ft130: 00.11.07.36→00.11.07.60 <cft>  
131.Ft131: 00.11.07.36→00.11.16.83  
<duple rhythm>  
132.Ft132: 00.11.19.62→00.11.19.98 <cft>  
133.Ft133: 00.11.22.27→00.11.23.95 <2+3>  
134.Ft134: 00.11.25.09→00.11.25.30 <cft>  
135.Ft135: 00.11.31.30→00.11.31.70 <cft>  
136.Ft136: 00.11.35.98→00.11.37.97 <3+3>  
(極めて特徴的なリズム音色)  
137.Ft137: 00.11.38.09→00.11.38.37 <cft>  
138.Ft138: 00.11.39.63→00.11.40.61  
<triple rhythm>  
139.Ft139: 00.11.41.77→00.11.42.02 <cft>  
140.Ft140: 00.11.44.78→00.11.45.04 <cft>  
141.Ft141: 00.12.04.45→00.12.04.75 <cft>
- (もりたに みねお 英文学科)  
(もりたに みれい)  
2000年10月18日受理